

授業科目：小児歯科学

担当教員：白川 哲夫, 高森 一乗, 武井 浩樹

| | |
|----------------------------|--|
| 授 業 の ね ら い | <p>乳幼児期からの口腔機能の健全な発達は、生涯にわたる健康の維持にとって極めて重要である。出生時あるいは乳幼児期に中枢神経系に何らかの障害のある小児では、摂食機能にも発達の遅れがみられることが多く、QOLが損なわれている場合も多い。しかし、発達の障害による各種機能の遅滞の病態については不明な点が多く、食欲の調節、舌運動、口腔周囲筋活動、顎運動等について多面的な研究が必要とされている。</p> <p>本授業では摂食機能に関連する中枢の発達の基本的なメカニズムを概説するとともに、実験動物を用いた電気生理学的ならびに分子生物学的手法を含め、さまざまな研究法とその手順を説明する。また遺伝子変異あるいはDNAメチレーションの変化が中枢機能に及ぼす影響について、細胞レベル、ゲノムレベルでの解析手法ならびに実験方法について説明する。さらに、頭蓋・顎顔面ならびに歯の形成についても、エピジェネティクスの観点から制御メカニズムについて説明する。</p> <p>以上のような授業内容を十分に理解することにより、目的に応じた研究手法の使い分け、ならびに実験技術の向上や改良等の応用能力を身につけることが可能となる。</p> |
| テ ー マ ： | <p>1) 障害児（者）にみられる呼吸・咀嚼・嚥下機能障害</p> <p>2) 遺伝子変異による摂食機能発達の異常</p> <p>3) 小児期の咬合異常と顎顔面領域の筋活動の関係</p> <p>4) 頭蓋・顎顔面ならびに歯の形成と遺伝子</p> |
| 内 容 ： | <p>1) 摂食調節中枢の神経機構と神経活動の測定法，神経伝達物質の局在</p> <p>2) 摂食行動に関わる遺伝子・ペプチドとその機能，ならびに遺伝子発現調節メカニズム</p> <p>3) 顎運動にかかわる神経機構，咬合異常と筋活動</p> <p>4) 頭蓋・顎顔面ならびに歯の形成に関わる遺伝子</p> |
| 成 績 評 価 ： | <p>口頭試問をもって評価する。</p> <p>データ検討会への参加を必須とする。</p> |
| そ の 他 ： | <p>テーマごとに文献を提示する。</p> |